

みずほマーケット・トピック(2024 年 9 月 6 日)

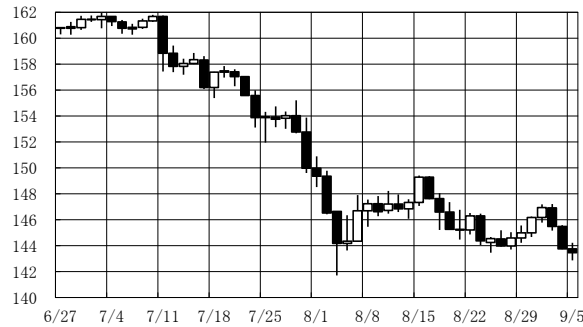
内容	1. 為替相場の動向	2. 来週の注目材料
	※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。	

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

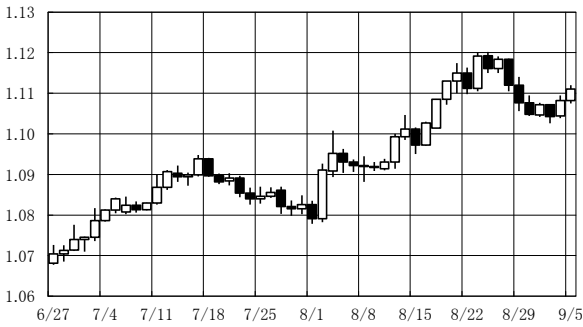
- 今週のドル/円は米金利低下が重しとなり、水準を切り下げた。週初2日、146.43円でオープンしたドル/円は、材料に欠ける中で146円台前半を中心にレンジ推移。海外時間は、米国休場の中、米国債先物価格の下落を背景に米金利上昇の思惑が強まり、147円付近に上昇した。3日、ドル/円は東京仲値にかけ円売りが強まり一時週高値となる147.20円に上昇も、その後は日本株下落などが重しとなり146円台前半に反落。海外時間は、米8月ISM製造業景気指数の軟調な結果を受けた米金利低下が重しとなり、145円台前半に続落した。4日、ドル/円は日本株の大幅下落が嫌気され、145円台前半を中心にじり安。海外時間は、米7月JOLT求人件数の弱めの結果を受けた米金利続落が材料視され、143円台後半に下落幅を拡大させた。5日、ドル/円は堅調な本邦7月毎月勤労統計の結果を受けた円金利上昇を背景に、143円付近に下落した。海外時間は、米8月ADP雇用統計の軟調な結果を受けた米金利低下に合わせ、1か月ぶりの安値となる142.86円に下押し。米8月ISM非製造業景気指数の堅調な結果が公表されると、米金利反発に合わせ144円に乘せる場面もあったが、その後は上値重く推移し、結局143円台半ばで引けた。本日のドル/円は、引き続き143円台前半で取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは米金利低下を受け、週半ば以降水準を切り上げた。週初2日、1.1045でオープンしたユーロ/ドルは、米国休場で材料難の中で、独金利上昇が好感され1.10台後半にじり高推移した。3日、ユーロ/ドルは軟調な米経済指標を受けた米金利低下を背景に上昇する場面もあったが、欧米株の下落が嫌気される中で、一時週安値となる1.1026に下落した。4日、ユーロ/ドルは米経済指標の軟調な結果が公表されると、米金利低下を受け一時1.11手前まで上昇した。5日、ユーロ/ドルは米8月ADP雇用統計の弱い結果の公表後には一時週高値となる1.1119に上昇。その後堅調な米経済指標の公表を受けた米金利反発を受け1.10台後半に値を戻すも、米金利は再度低下に転じ、1.11台を回復して引けた。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.11台前半で取引されている。

		前週末	今 週			
		8/30(Fri)	9/2(Mon)	9/3(Tue)	9/4(Wed)	9/5(Thu)
ドル/円	東京9:00	144.88	146.43	146.77	145.40	143.33
	High	146.25	147.16	147.20	145.55	144.22
	Low	144.65	145.80	145.16	143.71	142.86
	NY 17:00	146.20	146.90	145.48	143.75	143.44
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1080	1.1045	1.1067	1.1049	1.1081
	High	1.1095	1.1077	1.1070	1.1095	1.1119
	Low	1.1044	1.1042	1.1026	1.1040	1.1075
	NY 17:00	1.1047	1.1072	1.1044	1.1083	1.1111
ユーロ/円	東京9:00	160.45	161.78	162.36	160.64	158.89
	High	161.66	162.90	162.78	160.87	159.73
	Low	160.22	161.12	160.53	159.28	158.57
	NY 17:00	161.52	162.60	160.80	159.28	159.34
日経平均株価		38,647.75	38,700.87	38,686.31	37,047.61	36,657.09
TOPIX		2,712.63	2,715.99	2,733.27	2,633.49	2,620.76
NYダウ工業株30種平均		41,563.08	-	40,936.93	40,974.97	40,755.75
NASDAQ		17,713.62	-	17,136.30	17,084.30	17,127.66
日本10年債		0.89%	0.90%	0.92%	0.88%	0.87%
米国10年債		3.91%	-	3.83%	3.76%	3.72%
原油価格(WTI)		73.55	-	70.34	69.20	69.15
金(NY)		2,527.60	-	2,523.00	2,526.00	2,543.10

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、11日(水)に8月消費者物価指数(CPI)が公表される。前回7月の結果は+2.9%(前年比、以下同様)と市場予想および6月の+3.0%を下回った。また、食料品とエネルギー価格を除いたコアベースでは、+3.2%と市場予想に一致し、6月の+3.3%から伸びが鈍化した。非コア項目では、エネルギー価格が+1.1%と2か月ぶりに伸びが加速した。他方コア項目では、コア財価格が▲1.9%と7か月連続でマイナス寄与となり、コアサービス価格も+4.9%と2022年4月以来の低水準を記録した。FRBが重視する居住費除くコアサービス価格も、ブルームバーグの試算によれば+4.48%と3か月連続で伸びが鈍化しており、広範囲でデシインフレがみられる。中旬に控える9月FOMCを前に、本日公表の8月雇用統計、および8月CPIの2つの指標が最も注目を集めるだろう。なお、8月の結果に関しブルームバーグの事前予想では、総合ベースで+2.6%、コアベースで+3.2%と見込んでいる。
- 欧州では、12日(木)にECB政策理事会が開催される。前回7月会合は、政策金利の据え置きを決定した。ラガルドECB総裁は会見でWPP(Wages:賃金、Profits:利益、Productivity:生産性)とのキープレーズを使い、市場で関心の高いW(賃金)について、来年と再来年における鈍化に関し確信に近い自信を示すなど、ややハト派的な印象だった。もっとも最近では、ECBの目論見通り賃金インフレの落ち着きが確認されている。8月22日にECBが発表したユーロ圏4～6月期妥結賃金は、前年同期比+3.55%と2四半期ぶりに伸びが鈍化。同日に公表されたECB政策理事会議事要旨(7月会合分)でも、妥結賃金の重要性や各種データを待つべく利下げ判断を9月に持ち越した経緯などが記載されており、8月分の域内物価指標の弱めの結果も考慮に入れれば、9月会合における追加利下げ実施はほぼ確実だ。

	本 邦	海 外
9月6日(金)	・7月家計支出 ・7月景気動向指数(速報)	・独7月鉱工業生産 ・ユーロ圏4～6月期GDP(確報) ・米8月雇用統計
9日(月)	・4～6月期GDP(確報) ・7月国際収支 ・8月景気ウォッチャー調査	・ユーロ圏9月センチックス投資家信頼感 ・米7月卸売在庫(確報)
10日(火)	・8月工作機械受注(速報)	・独8月消費者物価指数(確報) ・米8月NFIB中小企業楽観指数 ・米大統領選挙候補者討論会
11日(水)	—————	・米8月消費者物価指数
12日(木)	・8月国内企業物価指数	・独7月経常収支 ・ユーロ圏ECB政策理事会 ・米8月生産者物価指数
13日(金)	・7月鉱工業生産(確報) ・7月設備稼働率	・ユーロ圏7月鉱工業生産 ・米9月ミシガン大学消費者マインド(速報)

【当面の主要行事日程(2024年9月～)】

自民党総裁選(9月12日告示、9月27日開票)
 ECB政策理事会(9月12日、10月17日、12月12日)
 FOMC(9月17～18日、11月6～7日、12月17～18日)
 日銀金融政策決定会合(9月19～20日、10月30～31日、12月18～19日)

金融市場部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2024年9月5日	ドイツ産業空洞化とユーロ相場について
2024年9月4日	いよいよ注目され始めたドイツの産業空洞化
2024年9月3日	大混乱から1か月～市場は安定を取り戻したか？～
2024年8月30日	週末版
2024年8月29日	日銀の自然利子率推計について～「中立金利1%」説～
2024年8月27日	ドル売りの持続性は？～買われるユーロ、英ポンド、円～
2024年8月26日	パウエル講演を受けて～気になる労働市場への評価～
2024年8月23日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～ユーロ相場の先行きについて～)
2024年8月21日	円ロングの積み上げが続くリスクはあるのか
2024年8月20日	企業買収を通じた対内直接投資の現状について
2024年8月19日	財PPP vs. サービスPPP～正しいのは円安か、円高か～
2024年8月16日	週末版(欧州経済の現状について～人手不足から需要不足へ～)
2024年8月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年7月分)
	ポスト岸田の考え方～金融政策の大勢に影響なし～
2024年8月14日	24年上半期の需給環境について～ほぼ均衡～
2024年8月13日	投機が去った円相場～注目は「家計の円売り」へ～
2024年8月9日	週末版(「円安バブル」報道について②～2005-07年との比較分析～)
2024年8月8日	「円安バブル」報道について①～05-07年との比較分析～
2024年8月2日	週末版(「日銀は変わった」はいつまで続くか～「やっぱり変わっていなかった」の怖さ～)
2024年8月1日	日銀会合を受けて～ドル/円相場の考え方～
2024年7月25日	週末版
2024年7月24日	インバウンド、「量」から「質」の意味するもの
2024年7月23日	バイデン撤退も市場動かず～円ショートは依然膨大～
2024年7月19日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「賃金は必ず下がる」という自信～)
2024年7月18日	日銀会合プレビュー～円高だからこそ利上げ～
2024年7月17日	進むインフレ税による財政再建～資金循環統計～
2024年7月16日	復活しつつある「インフレの輸入」～利上げへの追い風～
2024年7月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年6月分)
	週末版(金利差に騒がない大事さ～問題は投機が去った後～)
2024年7月11日	株価、「真正正銘」のバブル超えの読み方
2024年7月10日	最近の円相場の需給環境について
2024年7月8日	米大統領選挙、現時点の解釈～為替市場の視点～
2024年7月4日	円安功罪論について～総論と各論を分けるべし～
2024年7月3日	短観(6月調査)が意味するもの～利上げは可能か～
2024年7月2日	フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年7月1日	24年上半期を終えて～円は真正正銘の最弱通貨～
2024年6月28日	週末版
2024年6月27日	家計金融資産の現状～外貨比率は最高値更新へ～
2024年6月25日	「隠れ円安」への正しい理解～実効円安を見る努力を～
2024年6月24日	為替政策報告書～日本のリスト入りは形式上の不備～
2024年6月21日	週末版(欧州委員会による財政是正措置勧告～フランス極右政党 vs. 欧州委員会～)
2024年6月19日	本邦5月貿易収支を受けて～思ったよりも減らない赤字～
2024年6月18日	久しぶりの欧州政治騒動～27年まで波乱無しが基本に～
2024年6月17日	日銀金融政策決定会合を終えて～上がる期待値～
2024年6月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年5月分)
	週末版
2024年6月13日	FOMCを終えて～中立金利上昇と為替見通し～
2024年6月12日	既に前年実績を超えてしまった「家計の円売り」
2024年6月11日	懸念される旅行収支黒字の頭打ちという未来
2024年6月10日	円相場の需給環境について～4月までの総括～
2024年6月7日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利下げ局面入りへ～)
2024年6月5日	証券投資は巻き返すか？～収益率で考える未来～
2024年6月4日	敢えて考える対内直接投資促進の「負の側面」
2024年6月3日	強含む経済指標に囲まれるECB～ユーロ相場の考え方～
2024年5月31日	週末版
2024年5月29日	虚しく響く「33年連続、世界最大の対外純資産国」の肩書き
2024年5月28日	「This time is different」は利上げ予告か～内田講演～
2024年5月27日	加速したユーロ圏妥結賃金とECBブログの言い分
2024年5月24日	週末版
2024年5月23日	金利差縮小でも円安修正は進まず～議事要旨を受けて～
2024年5月22日	「もしトラ」で注目される欧州の立ち回り
2024年5月21日	ユーロ圏経済の近況～「底入れ」という不都合な真実～
2024年5月20日	垣間見えたECBの「次の一手」～ECB理事インタビュー～
2024年5月17日	週末版(色濃くなるスタグフレーションの様相～窮屈になる日銀の政策環境～)
2024年5月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年4月分)
	円安抑止の処方箋～即効性と持続性のトレードオフ～
2024年5月14日	通貨政策化する金融政策～定着する「為替との戦い」～
2024年5月13日	1～3月期国際収支統計～需給改善を確認～
2024年5月10日	週末版
2024年5月9日	遂にインフレ税が始まったのか？～円安と債務～
2024年5月8日	FRBの「次の一手」と円相場の予想パスについて
2024年5月7日	円安抑止の処方箋～NISA国内投資枠～
2024年5月2日	週末版(レバトリ減税について～「5%の摩擦」に拘るべき～)
2024年4月30日	日銀が回避した為替との戦い、今後のリスク
2024年4月26日	週末版
2024年4月25日	トランプ氏と為替～結局、何も考えていない？～
2024年4月23日	世界経済の下方シフトの背景にあるもの～IMF分析～
2024年4月22日	ドル高是正の国際協調に機は熟せず～G20とドル高～
2024年4月19日	週末版
2024年4月18日	IMF世界経済見通しを受けて～またも「分断」はテーマに～
2024年4月17日	前途多難な貿易収支～待たれる電源構成の変化～
2024年4月16日	最悪のシナリオは米利上げ再開～中東リスクと円安
2024年4月15日	依然赤字圏のCFベース経常収支～原油価格騰勢の足音～
2024年4月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年3月分)
	週末版(ECB政策理事会を受けて～6月利下げはほぼ既定路線へ～)
2024年4月11日	「でこぼこ道」が「再燃の入口」か～米3月CPIを受けて～
2024年4月10日	過去最高ベースだった「家計の円売り」～Q1を終えて～
2024年4月9日	対内直接投のキーワードは「資本はアジア、業種は金融・保険業」へ
2024年4月8日	独歩歩だった円相場～第1四半期振り返り～
2024年4月5日	週末版
2024年4月4日	ECBは6月利下げに向けて第一関門突破
2024年4月3日	外貨準備構成通貨の近況について(2023年12月末時点)